

特集

女性医学 Update

企画者のことば

松野香苗* 岡本愛光*

産婦人科の4本目の柱として、女性医学が日本産科婦人科学会のサブスペシャルティと認定されて3年あまり、臨床・研究の場面でますますその重要性が謳われている。女性医学とは「産婦人科の専門領域のひとつで、QOLの維持・向上のために、女性に特有な心身にまつわる疾患を主として予防医学の観点から取り扱うことを目的とする」と定義されている。それはまさに周産期・婦人科・生殖内分泌領域すべてとかわりがあり、そのすべての基盤となっている。

超高齢社会を迎えている日本では健康寿命の延長が課題であり、女性医学はその大きな役割を担っていると考えられる。

近年、ホルモン補充療法ガイドラインの改訂や骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインの改訂、漢方医療のエビデンスの蓄積など女性医学にまつわる知見が次々にアップデートされている。ホルモン治療や骨粗鬆症治療、漢方療法は苦手とする産婦人科医も多い。今回、各分野でのエキスパートたちに、特に若い先生方が明日からの診療に役立てられるような内容に執筆していただいた。女性の健康を生涯にわたり支えるという産婦人科本来の立場を今一度見直し、正確な医療を提供し、健康寿命の延長へ寄与できることを願い、この「女性医学 Update」をお届けする。

*Kanae Matsuno, Aikou Okamoto 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座